

報民  
リポーター  
だより  
⑦

# 燃やせない ごみの行方

二週間に一度という割合でも、数年前までは不燃ごみの回収日に出される量はそれほど多くはなかったように思われますけれど、最近は待ちかねていたとばかりに、一時預かり所へ小山のように盛り上げられているのを目にするようになりました。

婦人会や生活学校等、地域で廃品回収を年間行事として組み入れ、省資源、リサイクルの推進を活動の一つとして取り組んできた私には、これらの不燃物が処理される過程で、資源としてリサイクルルートに乗せられる比率はどれぐらいなのか、それがとても気になることでした。燃やせないごみの行方を追跡しようと思いついたのは、できるだけ高い比率でリサイクルされますようにと願う気持ちがあったからです。

## 回収車を追跡して

今日は旧市内の不燃ごみの回収日という一日、回収車を追跡してみました。  
こんなにも間近にと思えるほどの間隔でごみの一時預かり所

があるのに、行く先々どこもかしこも盛りだくさんの不燃ごみであふれていて、その量の多さには改めて圧倒される思いがしました。

回収されていく物の中に、私たちが最近集団回収を始めたアルミ缶を見つけて、「捨てればごみ、生かせば資源」の持論がつい首をもたげ、多忙な回収作業中に迷惑なことと思いつつも「アルミ缶を回収していますので欲しいのですが」とお願いしたところ、快く袋を別にして取り分けてくれました。回収物は布類、空きビン、瓦礫のような物と種々雑多でしたが、中でもジュースなどの空き缶は群を抜いて多く、これは市内のいたる所で目にする自動販売機の普及の度合いに比例したものではないかと思われました。

回収作業にあたっていているのは男性二人、女性一人の三人で、実に手際よく片付けていきます。途中から雨が降り出し、雨具を着ての作業となり、大変ご苦労なことに察しました。十数カ所を回ったころいよいよ回収車は満杯！ 沼館にある広域の粗大

## 粗大ごみ処理施設

ここへ搬入されたごみは、ベルトコンベヤーで運ばれて破碎され、マグネットセパレーターによって磁性物とその他に二分されます。磁性物は鉄くずとしてリサイクルに回されていますが、これは不燃ごみ全体の1割弱ということでした。九割は埋め立て地へ直行ということが実情のようです。埋め立て地の確保もこれからは困難になると思われます。現在の埋め立て地を

より長く使うためにも、再生率を高めていかなければと切実に思いました。  
年々多くなりこそすれ、減ることはないといわれるごみ。その中で、焼却できないごみの減量を推進するためにはどのような方法があるのか、考えさせられました。

## アルミ缶の回収

アルミ缶は磁性物ではないので、現在は埋められているようですが、作業員の人は「アルミ缶だけでも徹底して集団回収してくれたら、不燃ごみは確実に二割は減る。」と言います。私はぜひ実現させたいと思いました。集団回収は、奨励金という恩恵もあって今や広く市民に浸透し、定着しています。そこでこ

## 環境衛生課で

最後に、清掃行政を担う環境衛生課でお話を伺いました。  
燃やせないごみの場合でも、処理する際はそのまま燃やさず一度破碎機にかけます。そのため燃やせる物でも燃やせないごみとして分類されているものがあるのです。最近その分類一覧表を各家庭に配布しましたので、ご家庭で見やすい所へ張って、正しく分けてほしいとご要望でした。  
次代に生きる子供たちのためにも、省エネ、省資源に努め、環境を整え、リサイクルの推進を実践していきたいと思えます。

## 広報市民リポーター

高松イク(十二所)



▲高松リポーター(右)と木村環境衛生課長